

令和6年11月24日 楽習会

参加されたみなさまからの感想

- ・ 食べるという一つの行為だけで、心情や状況などを表すことができるということを知りました。今後も読書する時にこういうところに着目して読んでいきたいと思います。
- ・ 文学と「食」のつながりはあまり想像つきませんでした。「食」が出てくるシーンから、その作品の面白さや、社会的な背景についても知ることができると分かり、とても興味深いと思いました。ありがとうございました。
- ・ 視点が楽しい。主人公の行動や言動を今回のように分析して、発展させていくことは楽しかったです。まずは出典の本を少しずつ読んでみたいです。
- ・ 海外文学は学生の時に読ませられた（課題で）以降、読む機会を失くしていましたが、「食」からの切り口の海外文学に興味がわきました。表現が独特で、深いと感じる作品ばかりでした。
- ・ 食べることそれ自体は、幸せなことだと思う。なぜだろう。その幸せを感じる時、何が満たされてそう思うのかは分からない。幸せを感じた時をよく見つめてみたい。
- ・ 「食」と「生きること」、確かにそういうこともあるなあと、一度日々の暮らしを立ち止まって考えることができた。ありがとう。子どもの頃、私が、熱があって風邪で寝ていた時、額に冷たい手をあてた母を、青菜のおひたしを食べると思い出す。手が青菜の匂いでした。
- ・ 本日の会のためのご準備、ありがとうございました。食べることは生きること、と思います。そしてこれまでのいろいろな経験が自分の体を作っていくのだと思います。
- ・ どれも読んでみたいです。特に『ムーン・パレス』と『侍女の物語』です。
- ・ 日常で食べているものではなく、いろいろな状況の中の食べ物が人生を考えるものとなっていることを知ることができた。
- ・ 詩を詠む心と似た授業に思えた。ダイレクトに言うのではなく、食のイメージが舞台を作ると思った。